

『星陰りて、謀り響く』追加ハンドアウト
クトゥルフの星の落とし子

陰謀論者のマードーミステリー

条件: カード「ファロス灯台の歴史」「フーガの死体」

を所有すること

ネタバレ防止用ページ

そして、直感する。自分は失敗したのだと。

エンディングでの行動制限

このハンドアウトを受け取った時点で、

エンディングでの行動が以下のものに固定されます。

「呪文〈クトゥルフの星の落とし子との接触〉」

ふんぐるい むぐるうなふ くとうるう るるいえ うがふなぐる ふたぐん
Ph'nglui mglw'nafh Cthulhu R'lyeh wgah'nagl fhtagn

を詠唱する

エンディング以外での「吊られようとする行動」「殺されようとする行動」などは制限されません。自分の状態を他のプレイヤーに伝える行為は禁止されません。

以下、フレーバーテキストです。

クトゥルフの星の落とし子

クトゥルフへの服従と覚悟を示した瞬間。

意味も形も成さなかった呪文が、海水のように頭蓋内を満たした。

呪文〈クトゥルフの星の落とし子との接触〉を、^{せいしん}星辰正しきときに唱えることで、クトゥルフの眷属「星の落とし子」が出現する。水より出づクトゥルフの星の落とし子は、天敵ハスターと死闘を繰り広げるのであろう。

そんな突飛な発想が、さも常識のように流れ込んでくる。

そして、直感する。自分は失敗したのだと。

喉の奥から理不尽なまでの激情が打ち寄せ、高鳴る鼓動が血潮を全身にばらまく。

自分には守りたいものがあったはずだ。愛する人がいたはずだ。故郷があったはずだ。目指していたものがあったはずだ。しかし、そんな想いも記憶も、そして失敗したという直感さえも、もう、どうでもよくなってしまふほどに。

呪文を唱えたくて、唱えたくて仕方がないのだ。